

大阪大学 *Syllabus*  
シラバス作成のための  
ハンドブック



# はじめに

近年、大学教育において学生の主体的学修が重視されるとともに、大学教育の国際化の進展に伴い、大学の教育情報の発信媒体としてのシラバスの意義も高まっています。大阪大学においても、教育の国際的通用性を確保する観点から、平成26年度に教育改革推進会議において全学統一の「シラバスフォーマット」改定が行われました。

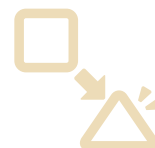
「新シラバスフォーマット」では、組織的かつ一貫性のある教育活動を体現するために、学位プログラムの教育目標に基づいた個々の授業の学習目標を設定することをはじめ、単位制度の実質化のための授業外学習の重視、明確な成績評価基準の明示など、「学生の主体的な学びの促進」が大きなテーマになっています。

このたび、シラバス作成時の参考情報として、大阪大学独自の「シラバスフォーマット」の項目に沿って、各項目の入力例やそのポイントなどを詳しく記載したハンドブックを作成しました。特に学生の自学自習を促すために最も重要な項目である「学習目標」については、担当授業科目の「学習目標」の設定のしかたや、その際に役立つ用語例まで、分かりやすく記載しています。なお、本ハンドブックの執筆にあたっては、教育学習支援センター大山牧子助教に尽力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。




本ハンドブックを大いに活用し、シラバスの内容のより一層の充実に努めていただければ幸いです。

2015年12月

小林 傳司  
大阪大学理事・副学長(教育担当)



# 目次

	シラバス作成チェックリスト……………	03
	1 シラバスとは?……………	04
	シラバスの定義と現状	
	シラバスの役割	
	2 大阪大学のシラバス……………	05
	3 シラバス入力の際のポイント	
	基本情報	
	詳細情報	
	① 講義題目……………	06
	② 開講言語	
	③ 授業形態	
	④ 授業の目的と概要	
	⑤ 学習目標(到達目標)……………	07
	⑥ 履修条件・受講条件……………	11
	⑦ 授業計画	
	⑧ 授業外における学習……………	12
	⑨ 教科書・教材	
	⑩ 参考文献	
	⑪ 成績評価	
	⑫ コメント……………	13
	⑬ 特記事項	
	4 シラバスの活用事例……………	14
	5 シラバス作成お役立ちFAQ……………	16
	シラバス作成&活用お役立ちセミナー / ……	17
	大阪大学のシラバスについて	



# シラバス作成チェックリスト

シラバスを作成する際のチェックリストとして活用してください。

項目	チェック	内容
④ 授業の目的と概要 (P.06)	<input type="checkbox"/>	目的の主語が学生になっている
	<input type="checkbox"/>	カリキュラムに位置づけられている
⑤ 学習目標 (到達目標) (P.07)	<input type="checkbox"/>	目標の主語が学生になっている
	<input type="checkbox"/>	評価可能な目標になっている
	<input type="checkbox"/>	1文に1つの目標を記述している
	<input type="checkbox"/>	評価の際の条件を具体的に明示している
	<input type="checkbox"/>	目標のレベルが適切である
⑦ 授業計画 (P.11)	<input type="checkbox"/>	理解のための順序が適切である
	<input type="checkbox"/>	適切な量が設定されている
⑧ 授業外 における学習 (P.12)	<input type="checkbox"/>	授業内の活動と関連付けている
	<input type="checkbox"/>	学習目標と関連付けている
⑩ 成績評価 (P.12)	<input type="checkbox"/>	学習目標と評価項目が対応している
	<input type="checkbox"/>	測定方法を明示している
	<input type="checkbox"/>	測定時期を明示している
	<input type="checkbox"/>	基準の配分を明示している
全体	<input type="checkbox"/>	目的・学習目標・授業計画と授業外学習がすべて一貫している
	<input type="checkbox"/>	学生の学習を中心に記述している



# 1 シラバスとは？

## シラバスの定義と現状

シラバスは文部科学省中央教育審議会において、以下のように定義づけられています。

「各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習などについての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習などを進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になると共に、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。」

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(2008)

シラバスとは、ここに示されているように、授業の詳細な情報が記された「授業計画」のことを指します。日本の大学において、全ての科目でシラバスを作成しているのは696校(約96%)であり、ほとんどの大学で導入されています(文部科学省, 2011)。多くの大学では、「授業のねらい・概要・内容・参考書・成績評価の基準・履修条件」といった項目をシラバスに記載していますが、近年は学習者中心の教育に対する関心が高まっていることから、「学生の学習」に関する項目も少しずつ増えてきています。大阪大学も例外ではなく、2014年度に全学レベルでシラバス項目の見直しを行い、学生の学習に焦点化したシラバスへと変更が加えられました。

では、学生の学習を促すために、シラバスをどのように活用できるでしょうか。シラバスは従来、主に学生の授業選択のために使われてきました。しかし、実は他にも多くの役割があります。

## シラバスの役割

佐藤(2010)は、シラバスの役割として、以下の8つを挙げています。

シラバスの役割 (佐藤, 2010, pp.2-3より抜粋)

- ① 授業選択ガイドとして
  - ② 契約書として
  - ③ 学習効果を高める文書として
  - ④ 教員と学生の間関係づくりのツールとして
  - ⑤ 授業の雰囲気伝える文書として
  - ⑥ 授業全体をデザインする文書として
  - ⑦ カリキュラム全体に一貫性をもたせる資料として
  - ⑧ 教員の教育業績のエビデンスとして
- 学生とのコミュニケーションツールとして
- 0回目の授業や教材として
- 質保証のための証拠書類として

シラバスには、①授業選択ガイド以外にも多くの役割があります。例えば、②で示されるように、北米圏にある多くの大学では、シラバスの記載内容について教員と受講学生の双方で同意し、契約を結びます。日本の大学の文脈では、「契約」という言葉がなじまないかもしれませんが、授業の冒頭でシラバスの内容を詳細に説明することで、学生の授業への取り組み姿勢の向上が期待できるでしょう。また、③～⑤の役割によって、シラバスを0回目の授業として位置づけたり、学習効果を高める教材として活用したりすることができます。第1回目の授業に入る前に、シラバス上で授業について詳細な説明を加えることで、4年間のカリキュラムにおける当該授業の位置づけや、授業全体の学習の流れを示すことができます。このような情報を授業開始前に学生に示すことによって、学生は自らの学習を方向づけることが可能となります。さらに、⑥～⑧のように、授業における教授学習活動<sup>1)</sup>が詳細に記されたシラバスは、教育の質保証や、教員自身の教育業績のエビデンスとしても活用することができます。

このように、シラバスの多様な役割を踏まえた上で、自学自習を促すような、授業をデザインしてみましょう。

## 2 大阪大学のシラバス

大阪大学のシラバスには、以下のような入力項目があります。2015年度シラバスから、学生の学習を中心に据えたものにするため、項目が新たに増えています(赤字の項目)。

### 大阪大学のシラバス項目

基本情報	詳細情報(教員入力)
時間割コード	①講義題目※
ナンバリングコード※	②開講言語
開講区分(開講学期)	③授業形態
曜日・時間	④授業の目的と概要
開講科目名	⑤学習目標(到達目標)
開講科目名(英)	⑥履修条件・受講条件※
対象所属※	⑦授業計画
担当教員	⑧授業外における学習
定員※	⑨教科書・教材※
単位数	⑩参考文献※
年次	⑪成績評価
	⑫コメント※
	⑬特記事項※

※は、入力任意の項目です。

新たに増えた項目は、学生の学習に深く関連する項目であり、この項目を適切に記述してシラバスを作成すると、学生の主体的な学びを促すことが期待できます。

1) 教授学習活動( Teaching and Learning ): 教員による教育活動や、学生の学習活動のこと



## 3 シラバス入力の際のポイント

各項目で、何を書けば良いのか、シラバス入力の際のポイントを示します。特に赤字の部分は、新しく追加された項目ですので、参考にしてください。

### 基本情報

基本情報の記載事項は、予め設定されていますので、新たに入力する必要はありません。変更が生じた際には、開講部署の教務担当者に連絡してください。またナンバリングコードを導入して、授業に番号を付することで、カリキュラムの順次性が示され、学生が計画的に授業を履修することができます。

### 詳細情報

詳細情報の記載事項は基本的に授業を担当する教員が入力します。※は、任意の項目となりますが、できるだけ記載してください。

#### ① 講義題目

予め決められていることが多いのですが、教員自身で設定する場合には、できるだけ授業内容に即した具体的な題目を割り当てましょう。

#### ② 開講言語

授業を何語で実施するかを記載します。対象者や学習目標に応じて「日本語」「英語」「日本語・英語」「その他」から選択してください。特に、日本語以外で授業を実施する場合は、必ず該当する言語を選択してください。

#### ③ 授業形態

「授業形態」は、授業の性質に応じて、該当する選択肢「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」「その他」から選択してください。KOAN上では、プルダウン式に選択肢が示されます。

#### ④ 授業の目的と概要

ここでは、授業の存在意義について書きます。学生から、「このコースはなぜ受けるべきなのですか?」と問われた際の返答と考えると良いでしょう。当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されているディプロマ・ポリシーを踏まえて記載してください。授業を履修するのは学生ですので、「目的」の主語には学生を据えましょう。このような目的を設定した上で、概要を示すと、コースの目的と、授業の方法が合致しているかどうかを確認することができます。目的に使用する

総括的な動詞には、以下のようなものが挙げられます。対象学年や領域に応じて、適切な目的を設定してください。

### 目的に使用する動詞(総括的な動詞)

(日本医学教育学会 2006)

修得する 身に付ける 理解する 創造する 位置づける  
 価値を認める 知る 認識する など

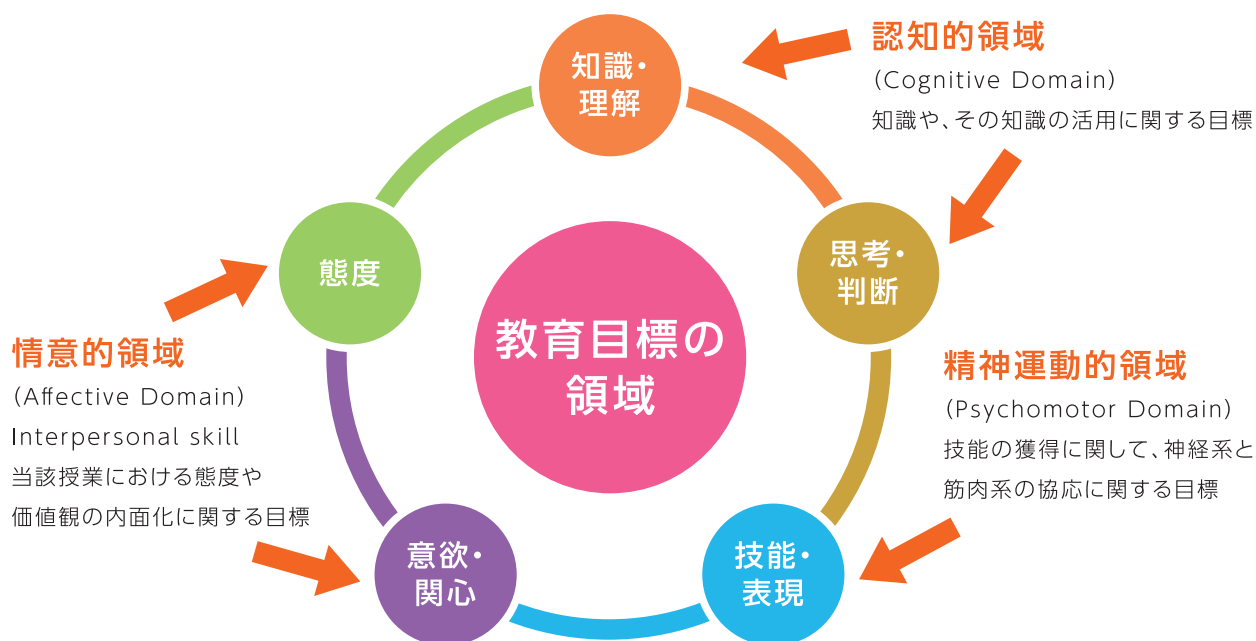
### 目的の記載例

- ✗ (教員が)「○○について説明する。概説する。」  
 問題点:教員が主語の文。概要説明になっている。
- (学生は)「××するために、○○について理解し、△△を的確に判断できるようになる。」

## ⑤ 学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)とは、学生がコース修了段階で身につけるべき能力(learning outcomes)を指します。シラバスを活用して、学生の自学自習を促すために、とても重要な項目となります。この項目についても、目標を達成する主体は学生なので、主語は学生にして記載してください。

授業を通して身につけるべき能力は、分野や学年によって、その種類やレベルは多様です。まず、教育の目標は、以下の図のように「認知的領域」「精神運動的領域」「情意的領域」の3つの領域と、そのレベルで示すことができます(梶田, 1983)。これら3つの領域は、学問分野の特徴によって、重み付けが変わるため、1つのコースで全ての領域の目標が導入されている必要はありません。学問分野、学生の学習状況などに応じて、それぞれの領域から設定するとよいでしょう。





## 学習目標に使用する動詞の例

学習目標記載の際に使用する動詞を挙げます。認知的領域については、下方向にいくにしたがって、学習レベルが高くなります。それぞれ、学年やカリキュラムを考慮して動詞を選んでください。

### 認知的領域

#### 学習レベル(低)

列記(挙)する  
述べる  
推論する  
記述する  
説明する  
分類する  
比較する  
対比する  
類別する  
弁(識)別する  
関係づける  
予測する  
具体的に述べる  
結論する  
同(特)定する  
公式化する  
一般化する  
指摘する  
選択する  
使用する  
応用する  
適用する など

#### 学習レベル(高)

### 精神運動的領域

測定する  
実施する  
模倣する  
熟練する  
工夫する  
触れる  
行う  
調べる  
操作する  
挿入する  
準備する  
手術する  
視診する  
聴診する  
触診する  
打診する など

### 情意的領域

協調する  
配慮する  
参加する  
コミュニケーションする  
討議する  
尋ねる  
示す  
見せる  
助ける  
感じる  
行う  
相談する  
寄与する  
反応する  
応える など

(日本医学教育学会 2006)

## 学習目標を入力するポイント

では、具体的にシラバスにはどのように書けばよいでしょうか。学習目標を入力するポイントを以下に4点示します。

### ●観察と評価が可能な事柄を書く

学習目標は観察可能であり、かつ評価可能なものでなければなりません。例えば、「○○をじっくり味わうことができる」という学習目標はどうでしょうか。学生が「味わっているかどうか」を客観的に測定することは不可能と言えます。ここでは、味わった結果、何を理解して、また何ができるようになったのかを書くことがポイントとなります。例えば、「○○について、その概要を説明できる」というように、具体的に示しましょう。

さらに、学習目標は、より具体的に記載することが望まれます。例えば「○△」論という授業において「○△論の基本を説明する」という目標を設定するのはどうでしょうか。ここでは、「基本」という基準が曖昧です。「基本」とは何を理解することなのかについて、もう一段階具体的に記述することで、学生が目標を持って、授業に臨むことが期待できます。

### ●1つの文章に1つの目標を示す

1つの文章に複数の目標があるのは望ましくありません。例えば「××の現象について分析するとともに、△△を説明する」。この記述には、「××の現象について分析する」「△△を説明する」という、並列した2つの目標が存在します。この場合、××の現象については分析をしているものの、△△を説明するには十分でないという事が起こり得ます。2つの目標に主従関係がある場合を除いて、2つの目標が個別に評価できる場合には、1つの文章に1つの目標のみを示す方が学生の理解は高まります。

### ●評価される条件や基準を明示する

当該コースにおいては、どこまでを理解できるようになれば良いのかを明確にするために、評価される条件をできるだけ明示してください。例えば、「電卓を使って△×の計算ができる」や「具体例を3つ以上挙げることができる」などが挙げられます。学年や学生の習熟度に応じて設定してください。

### ●難易度は、現実的、かつチャレンジングなレベルに設定する

難易度の設定は、学習の動機づけと深く関わります。目標が高過ぎると、学生は学習に取り組む前に諦めてしまい、目標が低過ぎると、達成感が得られずに、やる気を無くしてしまいます。カリキュラム全体における当該科目の位置づけを踏まえた上で、対象学生の専攻分野や能力、学年などを考慮し、達成すべき目標を設定してください。

学習目標を明確にすることは、学生の自学自習を促すだけでなく、教員にとってもメリットがあります。明確な学習目標を設定することで、教員は学生の学習状況をより正確に理解することができます。コースの途中段階で、学習が達成されているのか、またされていないのかをチェックして、学生が理解していない場合、その理由を振り返ることで、授業の内容や方法の改善につなげることができます。

一方で、学習目標を明確化することで、柔軟性やダイナミクスが失われ、学習の幅を制限してしまうという懸念の声もあります。もちろん、望ましい状況とは、学生が目標以上の発展的な学習を行うことです。そのためには、シラバスにおいて、全ての履修生が達成すべきラインの目標を掲げた上で、さらなる高みを目指すことができるよう、高度な発展課題や難易度の高い参考文献を掲げておきましょう。

大学では、1つの授業を複数の教員で担当する、いわゆるオムニバス形式の授業が展開されることも少なくありません。1つのテーマに沿って、様々な教員のアプローチの授業を受講できることから、幅広い学びにつながるという利点があります。しかしながら、教員間で十分に合意形成がとれていない場合には、体系的な学びを得られずに、授業が終了してしまう恐れがあります。オムニバス形式で実施する場合は、教員間で十分に学習目標について議論をする必要があります。

## 学習目標の記載例

✘ 「高等教育論の基礎をマスターさせる」

問題点:—「高等教育理論」の指す範囲が大きすぎる  
—「基礎」と「マスター」の基準があいまい  
—主語が教員

○ 「わが国における高等教育理論の歴史の変遷の中でも、1990年代に起きた出来事について3つ挙げて説明できる」

✘ 「大学で学習するために必要な事柄について理解するとともに、それを使って研究するための基礎技能を身につける」

問題点:—2つの目標が含まれている  
—「必要な事柄」「基礎技能」の基準があいまい

○ ・大学で学習するために必要な「学習方略」を2つ使ってレポートを作成することができる  
・質的研究方法の特徴を3点説明できる

## ⑥ 履修条件・受講条件

受講するにあたって、必要とされる能力や履修の条件を具体的な授業名を挙げながら、部局ごとに十分議論をして記載してください。

### 履修条件・受講条件の記載例

「高校で学習する日本史の知識を必要とする」  
「英語Iを履修していることが望ましい」  
「同時に、国際関係論を受講するのが望ましい」  
「生物学Iを履修していることが履修条件」

## ⑦ 授業計画

授業全体は、基本的に複数回の授業で構成されています。この欄には、それぞれの授業で扱う内容を記載します。扱うテーマをより具体的に示すことで、学生は授業の流れを理解でき、計画的な予習が可能となるでしょう。授業を計画する上でポイントとなるのは、扱う内容の量と順序です。内容を詰め込みすぎず、無理なく進められるような量を設定しましょう。また、学生が目標を達成しやすいような順序となっているか、今一度見なおしてみてください。

例えば、受講生の情報(学年や人数)が授業直前までわからないなど、計画の入力が困難な場合もあります。また対象学年と受講人数が、昨年と同じであっても、受講生が変わると、その学力や雰囲気等は異なるので、一年たりとも同じ状況が再現されることはありません。そのため、詳細な授業計画をシラバスに示すのは敬遠されがちです。しかしながら、学生は、授業を登録する段階で、受講するそれぞれの授業の関連や、授業時間外における学習の予測をたて、自分に合った学習計画をたてる必要があります。そのためにも、授業中、ならびに授業時間外学習の内容や量(学習時間に換算)を示すことは重要です。計画の変更が生じた場合、シラバスを後日、加筆・修正し、学生からの合意をとるようにしてください。

特にオムニバス形式の授業の場合、綿密な授業計画が必要です。先述したように、オムニバス形式の授業では、複数の教員が担当することから、授業内容が分散する状況に陥ることがあります。授業を担当する教員同士で合意形成することが重要ですが、各授業の内容を具体的に示すことで、学生は授業全体としての学びを意識して学習することができます。

## ⑧ 授業外における学習

大阪大学の1年次前期の平均的な履修単位数は27単位であり、大学設置基準で定められている「1単位あたり45時間の学習」に換算すると、1週間あたり81時間、土日も含めて1日当たり11.57時間の学習が必要となります。大阪大学の学部生の1週間の学習時間(授業時間+授業外学習時間)は約30時間と、世界の研究大学とほぼ変わりません。しかしながら特に1～3年生の授業外学習時間を海外の研究大学と比較すると、3.12時間短いという結果が出ています(SERU:学生経験調査<sup>2)</sup> 2014より)。

学生の学習を促進するためには、授業の履修状況に配慮するとともに、1つのコースで学習目標を達成するために、授業外における学習も注意深くデザインする必要がある、場合によっては反転授業<sup>3)</sup>のような、新しい授業手法を取り入れてもよいでしょう。この欄では、授業に関する授業外学習が、予習にあたるのか復習にあたるのか等、その位置づけを明確にした上で、書籍名や、課題のページ数等を挙げながら具体的に入力してください。

## ⑨ 教科書・教材

使用する教科書や参考書を記載してください。購入が必須なものにはその旨を記すとともに、詳細な書籍情報を示してください。図書館に蔵書がある場合は、学生が利用しやすいように、その情報も記載してください。

## ⑩ 参考文献

授業で扱う内容に関連する文献を記載してください。書籍だけでなく、参考となるURLや論文名を記載してもよいでしょう。ここでは、授業で直接的に扱う文献だけではなく、関連文献も示すことで、学生のさらなる発展的な学習が期待できます。

## ⑪ 成績評価

成績評価の欄では、授業の成果としての学生の学習を測定する方法を記載します。具体的には、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかを入力します。測定の方法(例:中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・作品等)・基準の配分(例:テスト60%、レポート20%、毎回のコメントシート20%等)を記してください。なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか(例:中間テスト(日時)・小レポート(毎回))を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、その準備ができるようになるでしょう。成績評価の基準は、学生が最も注意を向ける項目です。コースの冒頭で、それぞれの評価の基準について示すことで、誤解やトラブルを防ぎ、学生は目標を持って学習することが可能となります。

---

2) SERUIは、カリフォルニア大学バークレー校を初めとした世界トップクラスの大学33校(2015年1月現在)が参加している学生経験調査。大阪大学は2013年より参加している。

3) 授業外学習を促す反転授業:従来、教室で実施される説明型の講義と、自宅で学習する演習を反転させて実施する授業形態を指します。従来の授業において学生は、講義によって知識を習得し、復習としての授業外学習に取り組む形式で、学習を進めてきました。一方、反転授業では、まず授業外で動画等を用いて予習としての知識を習得し、授業では、その知識を活用して、グループ学習やディスカッションを行う形式で学習を進めます。反転授業は、教える内容が多くて学生の深い学習が達成できない場合や、議論の時間が十分にとれない場合に効果的です。反転授業を実施した場合、授業外での学習は授業の根幹になる場合があります。それぞれの授業回において、具体的に授業外で、どのような学習が必要なのかを詳細に記すと、反転授業の形態にも対応することができます(大山,印刷中)。

## 成績評価の対象と方法

目標の領域	評価方法	評価対象	特徴	使用可能なツール
知識 [認知的領域]	客観テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多肢選択</li> <li>・一問一答方式</li> <li>・完成法(穴埋め)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公平性の担保</li> <li>・限られた時間で多くの問題が出せる</li> <li>・フィードバックしやすい</li> <li>・正誤の把握がしやすい</li> <li>・得点に引きずられる</li> <li>・妥当性に注意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マークシート</li> <li>・既存の参考書や問題集</li> </ul>
技能 [精神運動的領域]	パフォーマンス評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技</li> <li>・面接</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の理解を幅広く捉えられる(authentic)</li> <li>・既有知識や生活知識との結びつきが意識化される</li> <li>・正誤の把握がしにくい</li> <li>・妥当性に注意する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック</li> <li>・LMS</li> <li>・eポートフォリオ</li> </ul>
態度 [情意的領域]	パフォーマンス評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・エッセイ</li> <li>・ポートフォリオ</li> <li>・コンセプトマップ</li> <li>・作問</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>		

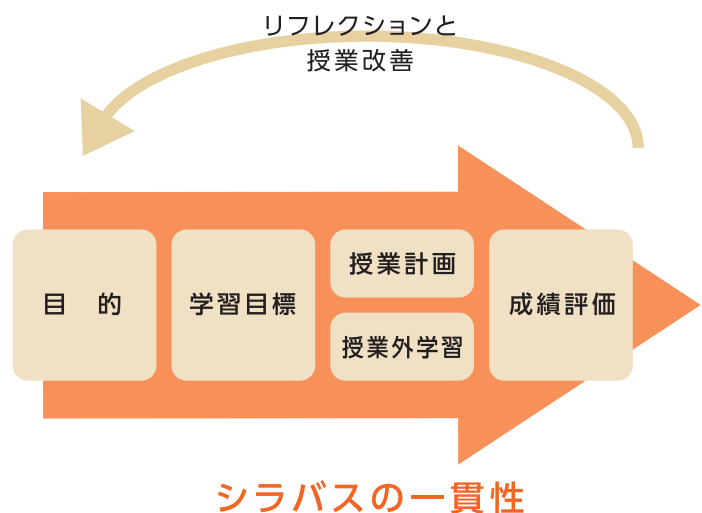
## 12 コメント

ここでは、学生へのメッセージを書きます。受講にあたって、学生の学習を促進する視点から、前向きなメッセージとして記載してください。また、授業の魅力を盛り込むと学生の学習意欲を高められるでしょう。

## 13 特記事項

授業を受講するにあたって、特別な配慮(ノートテイク、座席の配置、学生とのコミュニケーション方法など)など学生への留意事項や通知などがある場合は記載します。

ここまで、シラバスに記載する際のポイントをご紹介してきました。ぜひ、目的や学習目標、授業計画、成績評価の一貫性を意識してみてください。一見、シラバスに多くの項目を書くのは、とても大変に思われます。しかし、一度詳細なシラバスを作成すると、学生の自学自習を促すことができるだけでなく、教員自身のリフレクションを通して、継続的に授業改善を行うことができるという利点があります。前年度のシラバスと授業デザインを参照基準として、当該年度に受講している学生の理解状況を比較することも可能です。

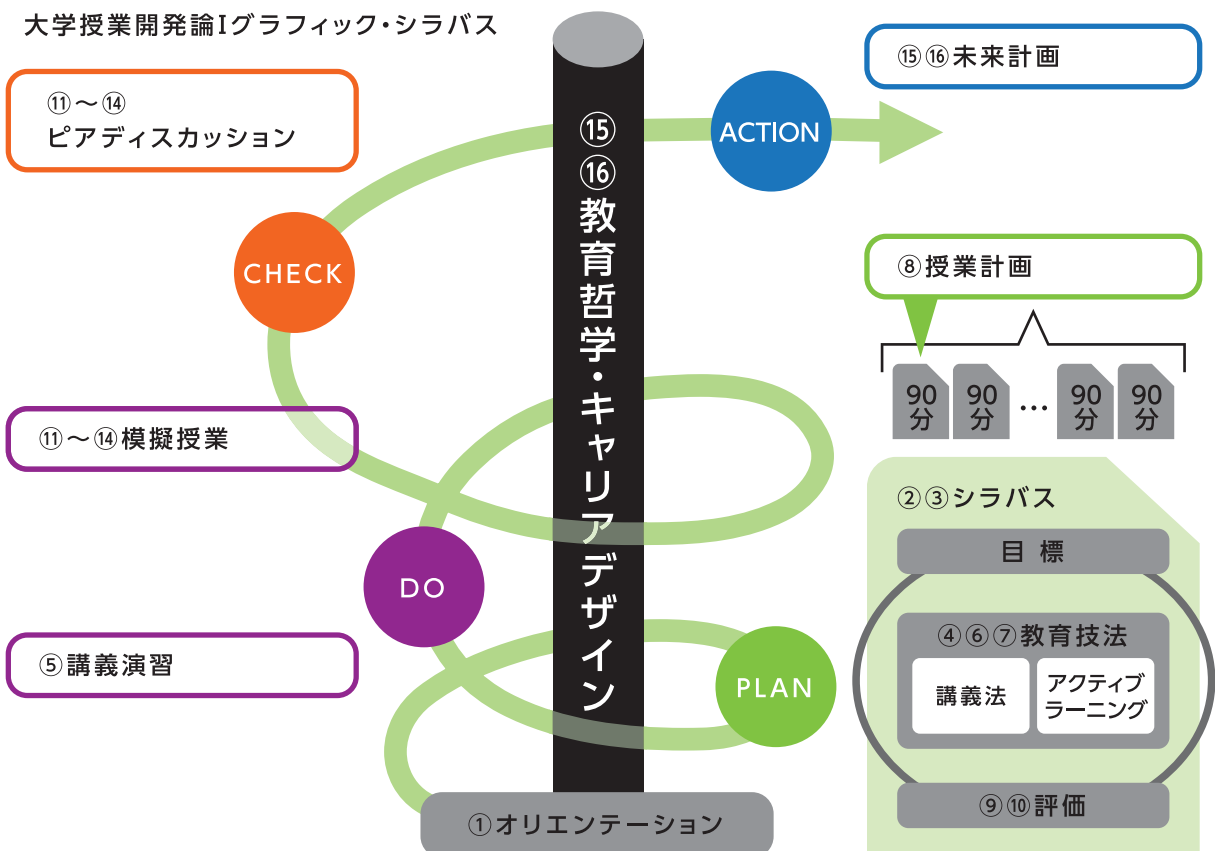




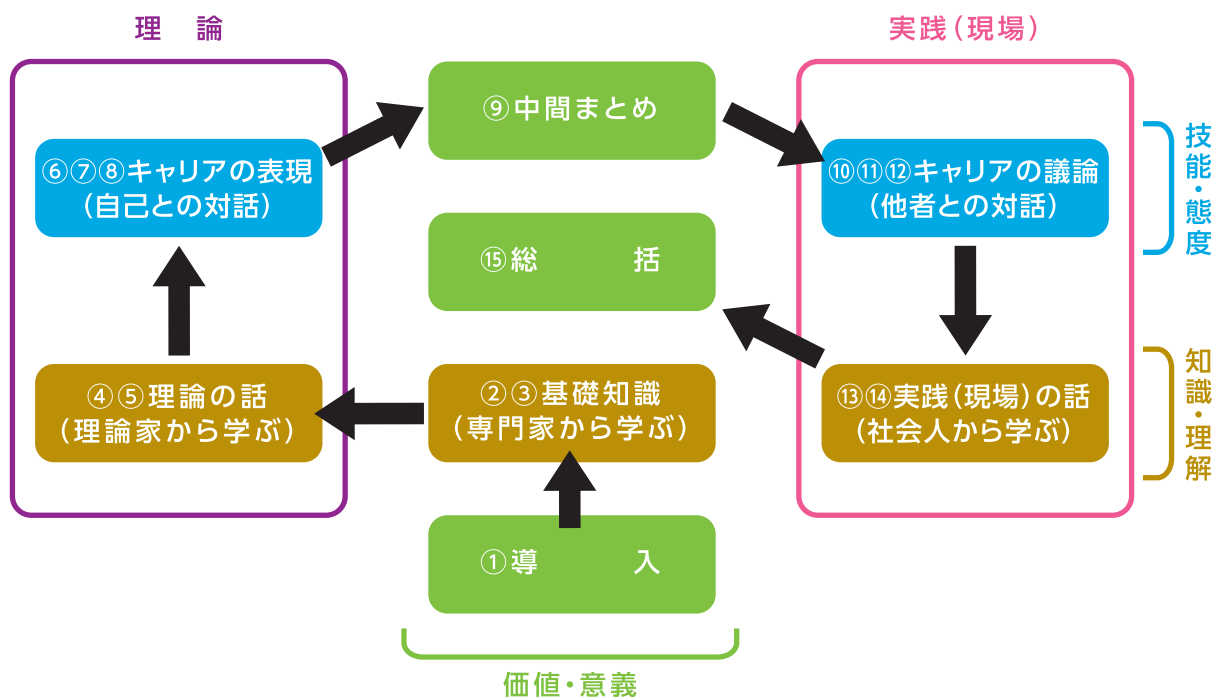
## 4 シラバスの活用事例

では、シラバスをどのように活用することができるでしょうか。従来、学生にとって、シラバスは授業選択のガイドとして履修登録時に参照するだけで、いざ授業が始まると見直すことはほとんどなかったかもしれません。しかし、シラバスは、授業中に活用することで、学生の深い学びを導く教材となり得ます。例えば、第1回目の授業で、シラバスを配布し、それを学生に毎回持参することを求めます。そして、毎回授業の冒頭で、今日の授業の位置づけについて確認することで、学生は1コマの授業だけではなく、授業全体としての学びを意識することができます。また、課題の意義についても授業全体との関連づけが可能になることから、学生の学習を意味のあるものに導くこととなります。さらに、学生は事前に学ぶべき概念を事前に把握することで、その後の学習が深まると言われている(先行オーガナイザー)(Ausubel & Robinson, 1969/1984)ことから、それらを示す意義があると言えます。ぜひ、シラバスを授業中にも学生とのコミュニケーションのツールや教材として活用してみてください。授業時に配布するシラバスは、受講前に提示するシラバスよりもさらに豊富な情報(教員個人に関する情報や、詳細な評価基準など)を加えて作成するとよいでしょう。また、文章だけでなく、授業の構造が見えやすいビジュアル(グラフィック・シラバス)を加えてもよいでしょう。

### グラフィック・シラバスの事例







【参考文献】

- ・Ausubel, D. P., & Robinson, F. G.(1969)  
吉田彰宏・松田彌生訳(1984) 教室学習の心理学:黎明書房.
- ・梶田叡一(1983)教育評価.有斐閣双書
- ・日本医学教育学会(2006)第33回医学教育者のためのワークショップ. 富士研WS配布資料.
- ・文部科学省(2008)学士課程教育の構築に向けて. 中央教育審議会答申.
- ・佐藤浩章編(2010)大学教員のための授業方法とデザイン. 玉川大学出版部.
- ・文部科学省(2011)大学における教育内容等の改革状況について.  
文部科学省高等教育局・大学振興課大学改革推進室.  
<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigaku/04052801/\\_icsFiles/afieldfile/2010/05/26/1294057\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2010/05/26/1294057_1_1.pdf)>2015.10.09アクセス
- ・大塚雄作・山田剛史(2012)5章大学教育評価, 京都大学高等教育研究開発推進センター編.  
生成する大学教育学. ナカニシヤ出版
- ・大山牧子(印刷中)反転授業. 小島佐恵子・佐藤浩章・城間祥子・杉谷祐美子・中井俊樹.  
大学のFD Q&A. 玉川大学出版部



佐藤浩章編 (2010)  
『大学教員のための授業方法とデザイン』  
玉川大学出版部

(執筆：教育学習支援センター 大山牧子)





## 5 シラバス作成お役立ちFAQ

**Q1** 授業計画は、変わることがあるので、あまり明確に示したくないのですが。

**A1** 学生の学習状況など、授業の進行に併せて授業計画は変更可能です。その都度、学生には、変更した旨を伝えた上で、シラバスを加筆・修正し、印刷したものを再度配布すると良いでしょう。(関連p.11)

**Q2** シラバスを授業で活用したいのですが、KOANで入力する際の入力枠が足りません。どうすればよいでしょうか？

**A2** KOANで登録したものを基盤にして、さらに詳細な情報を加えたものを授業の冒頭で学生に配布してください。情報量が豊富なシラバスは、学生にとっては、単なる授業選択ガイドではなく、教材として学習に活用することができます。(関連:P.14)

**Q3** KOANで、シラバスを入力する際、その操作方法がわかりません。

**A3** マイハンドイのメニューの「KOAN」→「マニュアル(教員向け)」を開いていただくと、機能ごとに説明があります。下記URLから、直接、シラバスの操作説明ページにジャンプしていただけます。  
<https://koan.osaka-u.ac.jp/portal/manual/inst-ructor/man/j/shira.htm>

**Q4** シラバスはいつでも修正できますか？

**A4** シラバスは学生との契約という役割もあるため、修正は注意深くする必要があります。特に成績評価の部分の変更は望ましくありません。授業計画については、学生の合意をとりながら変更を行ってください。シラバスのシステム上においては前期5月～8月、後期11月～2月までが変更可能です。(関連:P.11)

**Q5** シラバスや教育について情報をもっと知りたいのですが。

**A5** 教育学習支援センターでは、教授学習に関する様々なセミナーやワークショップを開催しております。詳細はWebページを御覧ください(<http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/>)。

# シラバス作成&活用お役立ちセミナー

教育学習支援センター(TLSC)では、シラバスの作成や活用について、より詳細に学ぶことができるセミナーを定期的を開催しております。セミナーでは、ご自身のシラバスを持ち寄って、実際に改善を試みます。ぜひご参加ください。詳細は教育学習支援センターのWebページを御覧ください。

- ・自学自習を促すシラバス作成法(120分)
- ・コースデザインワークショップ(合宿型2日間・通い型3日間・通い型英語4日間)
- ・本ハンドブックの内容は動画教材(10分間)としても学習することができます。  
<https://www.youtube.com/watch?v=SEAJj4HE0kM>



【シラバスの活用・研修についての問い合わせ先】

教育学習支援センター ☒office@tlsc.osaka-u.ac.jp

## 大阪大学のシラバスについて

大阪大学のシラバスフォーマットや、本ハンドブックの配付等についての問い合わせは、未来戦略機構戦略企画室(☎06-6210-8256 ☒contact\_q@iai.osaka-u.ac.jp)、もしくは教育推進部教育企画課までお願いします。

---

『大阪大学 シラバス作成のためのハンドブック』

2015年12月1日 発行

大阪大学教育改革推進会議

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

---

